

第16回日本ヒト脳機能マッピング学会

ランチオンセミナー2

2014 **3/7** (金)

11:55-12:40

仙台国際ホテル 2F 平成(東・中)の間

仙台市青葉区中央4-6-1

ドパミントランスポーター画像による

# 黒質変性の評価と 病態理解

座長

**瀧 靖之** 先生

東北大学加齢医学研究所  
脳科学研究部門 機能画像医学研究分野 教授

演者

**石井 賢二** 先生

東京都健康長寿医療センター研究所  
神経画像研究チーム 研究部長

共催

第16回日本ヒト脳機能マッピング学会  
日本脳神経核医学研究会  
日本メジフィジックス株式会社

 nihon  
medi+physics

# ドパミントランスポーター画像による 黒質変性の評価と病態理解

ドパミントランスポーター (DAT) を可視化することのできるSPECT/PET検査は、黒質変性を再現性良く客観的に評価できる。SPECT用DAT診断薬である<sup>123</sup>I-FP-CITは、パーキンソン症候群 (PS) と本態性振戦の鑑別を適応として欧州では2000年に、米国でも2011年に承認された。DATイメージングはレビー小体型認知症 (DLB) の改訂版コンセンサスガイドライン (2005年) において3示唆症状の1つとして取り入れられており、EUでは2006年にアルツハイマー病 (AD) とDLBの鑑別についても適応が承認された。わが国でも長らく普及が望まれていたが、2013年にPSおよびDLBの診断に対して承認され、2014年1月から日常診療で使用できることになった。本講演ではDATイメージングがPSやDLBの病態理解や診断治療に何をもたらすのか、PETによる自験例を提示しながら考察する。

線条体DAT密度は加齢変化が見られるが、線条体の各部位で5-10%/10年程度の極めて緩やかな低下である。一方、PD症例では被殻後部から始まる年間5-10%近い急速な低下が認められる。運動障害の発症の時点で、対側被殻後部のDAT密度は正常平均の1/2以下に高度に低下しており、黒質変性を早期に検出できる感度の高い検査である。PDの超早期あるいは発症前の病態進展を理解し、根本治療薬を開発する上で、重要なバイオマーカーとなる。また、ADとDLBという2大変性型認知症の鑑別および早期病態理解にも、DATイメージングは有用と考えられる。わが国で既に普及している<sup>123</sup>I-MIBG心筋シンチとDATイメージングの意義の違いについても触れる。

東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム

石井 賢二

About JCNN

## 日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

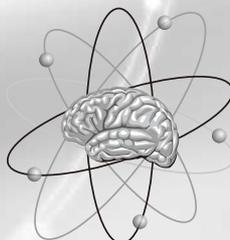
日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18F

日本コンベンションサービス株式会社内

E-mail: infojcnn@convention.co.jp

Tel: 03-3508-1214 Fax: 03-3508-1302



JCNN